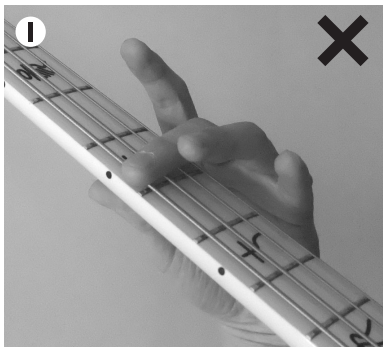
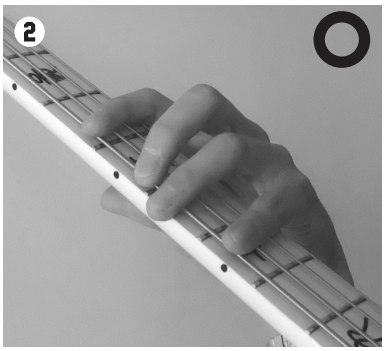
注意点1 左手

空ピッキングにおける左手＆右手の使い方

このエクササイズで取り上げている空ピッキングは、ファンク系の16ビート・フレーズでよく使用する。基本的にはミュート音（**ゴースト・ノート**【註】）を鳴らすことになるので、実際に演奏する時には音の止め方に気をつけることが大切だ。左手は、押弦を緩めながら、弦に軽く触れておこう。指1本で音を止めようとすると、ミュート音ではなくハーモニクス音が出てしまうことが多いので、複数の指を使うように心掛けてみてほしい（**写真**①＆②）。右手は、空ピッキングだからといって力を抜いてはいけない。逆にしっかり弾かないと、アタック感が出ないので気をつけよう。空ピッキングをマスターして、グルーヴ感を高めるべし！



ハーモニクス音が出てしまうので、指1本でミュートしてはいけない。



複数の指を使って、確実に音を止めることが大切だ。指の力を的確に抜こう。

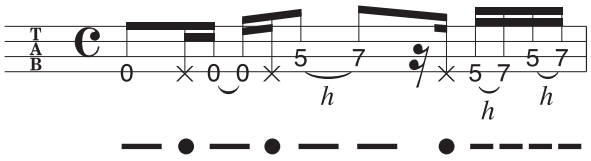
注意点2 理論

全体の流れを理解してグルーヴ感を生み出そう！

16ビート・フレーズでシェイク感やグルーヴ感を出すために、ギターは空ピッキング、ドラムはゴースト・ノートを使うことがある。同じようにベースは、ミュート音やハンマリング＆プリングといったテクニックを使って、うねりを出すことが多いのだ。このメイン・フレーズは、譜面の音符を目で追いながら演奏しているようでは、グルーヴ感が出ない。実音とミュート音を正確に弾き分け、ハンマリングを使ってレガート感を出し、さらに休符の長さを理解しておくことが大切だ（**図1**）。1音1音を瞬間的に処理（＝弾く）するのではなく、フレーズ全体をとおして弾く意識を持とう。フレーズの全体像が見えない者には、決してグルーヴは操れないのだ！

図1　音の長さのイメージ

・メイン・フレーズ1小節目



フレーズ全体の流れを理解した上で、
各音を“点”と“線”で捉えておくと、ノリが出る。

～コラム8～

将軍の戯れ言

ロック系スラップ・ベーシストならストラップの長さにもこだわれ！

ベース界ではその昔から“スラップができる人＝ベースがウマい人”という図式があった。そのため、多くのベーシストが憧れるのだが、立って演奏する時にはベースを持つ高さによってスタイルが変わる（**写真③**）。ベースを高い位置で持つと、アップ＆ダウンがしやすく、スタンダードなスラップが演奏しやすい。一方、低い位置で構えると、アップ＆ダウンがしづらいが、腕を大きく振ることができるため、アタック感のあるサウンドが出しやすい。どちらにもメリットとデメリットがあるので、各自で自分のスタイルを探すことが大切だ。

（左）高い位置で持つと、アップ＆ダウンが演奏しやすい。（右）低い位置で持つと、腕を大きく振れるためアタックのあるサウンドが生み出せる。

【ゴースト・ノート】実際に演奏していないのに演奏しているように聴こえる音や、非常に小さな音量の音。音量は小さいが、グルーヴを生み出す大きなスパイスになるので、的確に鳴らせるようになりたい。